

4月の銅マーケットレポート及び5月の見通し (3)

橋本アルミ (株) 橋本健一郎



【住宅】

- 平成29年3月の住宅着工戸数は75,887戸で、前年同月比で0.2%増となった。また、季節調整済年率換算値では98.4万戸(前月比4.7%増)となった。
- 住宅着工の動向については、前年同月比で先月の減少から再びの増加となっており、利用関係別にみると、前年同月比で貸家は増、持家、分譲住宅は減となった。
- 引き続き、今後の動向をしっかりと注視していく必要がある。

(持家)

前年同月比では先月の増加から再びの減少(前年同月比3.6%減、季節調整済の前月比では2.4%減)。

(貸家)

前年同月比では17か月連続の増加(前年同月比11.0%増、季節調整済の前月比では2.5%増)。

(分譲住宅)

前年同月比では2か月連続の減少(前年同月比10.8%減、季節調整済の前月比では17.7%増)。

(分譲マンション)

前年同月比では2か月連続の減少(前年同月比24.3%減)。

(分譲一戸建住宅)

前年同月比では17か月連続の増加(前年同月比3.4%増)。

【伸銅品生産】

伸銅品生産 前年比+8.2%の7万4040 t 8か月連続増加。平成22年10月の7万4,079トンに次ぐ高水準の生産となった。

内需	6万815 t	+2.7%	8か月連続プラス
輸出	1万3225 t	+10.2%	5か月連続プラス
銅条	2万3893 t	+15.4%	11か月連続プラス
黄銅棒	1万7366 t	+2.8%	11か月連続プラス

【電線】

前年比+2.1%の6万2400 t
うち 国内 +2% 輸出が +5.7%
通信-6%、電力-22.1%、電気機械+1.1%、自動車+1.6%建設電販-1%、その他内需+22.3%

【輸出】

電気銅輸出が-9.9%の4万9750 t。
銅スクラップは+15.9%の2万8881 t。

【輸入】

電気銅が一30.1%の1502 t。
スクラップは+10.1%の1万741 t。

【見通し】

- 自動車は生産が+4.7%。国内販売台数が前年比+5.4%。生産が6か月連続プラス、販売も7か月

連続プラス。生産、販売共に増加しており今後の動向に注目

- 住宅着工の動向については、前年同月比で微増となっており、下げ止まり傾向かどうか。今後の動向に注目
- 伸銅品 8か月連続プラスの前年比+8.2%。需要の多い銅条が、11か月連続プラス。黄銅棒も11か月連続プラス、輸出5か月連続プラス。今後の回復に期待。
- 電線 前年比+2.1%の6万2400 t。輸出が+5.7%と回復。需要の多い自動車、建設電販がそれぞれ+2.6%、-1%。全体として回復傾向。
- 銅輸出は、ここ最近の価格の下落傾向から、地金は減少。スクラップはメーカーの買い控え傾向から増加。
- 銅輸入はここ最近の下落傾向から増加。

【スクラップ需給予想】

流通在庫は少ないながらもGW休暇要因で、すでにできており市中玉は少ないのではないかと

需要面に関しては 住宅で底入れ? 自動車の生産販売は 好調であるが LME在庫の急増や地政学リスクの先行き不透明感から需給は緩むのではないかと

【価格・為替予想】

今月は韓国大統領の対北朝鮮政策と中国経済、環境問題の動向に左右される。当選した 韓国大統領の文氏は 対北朝鮮政策において融和のスタンスは支持しており、これが米国を中心とした国際社会の強硬姿勢と違いがあるのか? 現状のままなのか? に注目。

中国経済、環境問題に関しては 鉄、銅、アルミなのでこれまでにない環境規制が敷かれ生産活動に弊害がでてくる。この厳しい取り締まりが今後も続くのかどうかに注目。

それらを踏まえた5月の銅価格は、韓国大統領の文氏が対北朝鮮政策において、今までどおりの米国を中心としたスタンスを指示し、中国の環境規制が多少緩み 企業活動がこれまでとはいかないまでも動き出した場合、4月高値の5900ドルを予測。いずれかの場合は5700ドル。

下値はいずれの条件も達成できなかった場合4月一段安値の5500ドル。

為替は 地政学リスクと米トランプ大統領の通商政策の進展と為替への言及次第

それらを踏まえ予測は

北朝鮮問題が再び緊張し、米国の経済政策が進展しなかった場合 高値は4月後半高値一段高の109円台(TTM)を予測。いずれも行われなかった場合同安値の113円台を予測。

銅建値に関しては640-710円程度と予測している。